

今村雅弘議員（前復興相）の即時辞職とともに、
任命責任を負う安倍首相の退陣を求める(談話)

全国災対連は、東京電力福島第1原発事故で自主避難を余儀なくされた被害者に対して、「本人の責任」「裁判でもなんでもやればいい」などと国の責任を放棄する暴言を発した今村雅弘復興大臣に対して、「満身の怒りを込めてこの暴言を糾弾するとともに、今村大臣の即座の辞任を強く求める」との談話を発表した。

しかし、4月25日には自民党二階派のパーティで講演し、東日本大震災について「まだ東北で、あっちの方で良かった…」と、被災者と被災地を冒涇する発言を行った。今村前復興相の発言は、言語同断であり、復興に励む被災者の努力に水を差す許しがたいものである。国民的批判の前に翌26日に復興相を辞任したことは当然のことであるが、安倍首相の任命責任は重大である。

松本元復興相の9日間大臣をはじめに復興相は今回で7人目となる。被災地を直視しない無責任な言動は、被災者の心を深く傷つけている。安倍政権下でも5人目となる相次ぐ大臣の交代は、政権の被災者の人権軽視のあらわれと言わなければならない。

さらに、その典型は、安倍首相のオリンピック誘致活動における「フクシマはコントロールされている」との発言である。実態はノーコントロールである。しかも復興大臣の任命、そして更迭のくり返しこそ、ノーコントロールの表徴である。

国民の基本的な人権を無視する暴走を続けている中での今回の事態であり、全国災対連として、怒りを込めて今村議員の即時辞職とともに、安倍首相の退陣を求めるものである。

2017年4月28日

災害被災者支援と災害対策改善を求める全国連絡会
(略称：全国災対連)
事務局長 川村 好伸